

# は 学校は

## 自由の森学園高校 ⊕ (飯能市)

族音楽が聞こえたかと思うと、

「カバディ、カバディ……」と  
発声しながらインドの国民的ス  
ポーツに熱中する生徒がいると  
いう国際色豊かな空間で、別  
の部の和太鼓の音も響いてい  
る。

カバディ部員らは都内で行わ  
れる「全国学生カバディ選手権  
大会」を控え、真剣な表情で動  
きを確認していた。高校の部活  
動は1校のみで、対戦相手は大  
学生だという。

同校生徒は、誰でも新しい部  
活動を作ることができる。カバ  
ディ部も約4年前、テレビ番組  
で見た男子生徒が「やってみた  
い」と言い出したのが誕生のき  
り。

# 「食生活部」の学食人気

自由の森学園高校は、生徒  
が利用する食堂にも特徴があ  
る。外部の専門業者に委託せ  
ず、独自に採用した食生活部  
の職員が運営。栄養バランス  
などを考え、メニューの決定  
から食材の発注、調理まです  
べてを手がける。「食育」も  
教育の核の一つと考え、食堂  
ができた約30年前から、無農  
薬野菜を選ぶなどこだわりの



ある日の「伝統食」メニュー。  
サケごはんや肉じゃががなど、  
昔ながらの和食が並ぶ

料理を提供してきたという。  
家庭的な和風料理がメイン  
の「伝統食」というメニュー  
も頻りに登場する。10年近く  
食堂に携わる同部の並木宏篤  
さん(40)は「自分の子どもの  
ように、生徒にいいものを食  
べさせたいという一心でやっ  
てきた」と笑顔を見せる。  
昼間の食堂はオープン前か  
ら列ができるほどの人気。魅  
力をまとめた「日本で一番  
まっとうな学食」という本を  
卒業生が出版したこともあ  
る。

# 授業、部活「やりたい」実現

がいたため、選択授業でもカバ  
ディが行われるようになった。

年度末も迫った2月、女子生  
徒の一人は「やうと4  
割終わったくらい」と  
苦笑しながら、羊の毛  
と格闘していた。授業  
時間では間に合わず、  
休み時間や放課後を使って課題  
を進める生徒もいる。

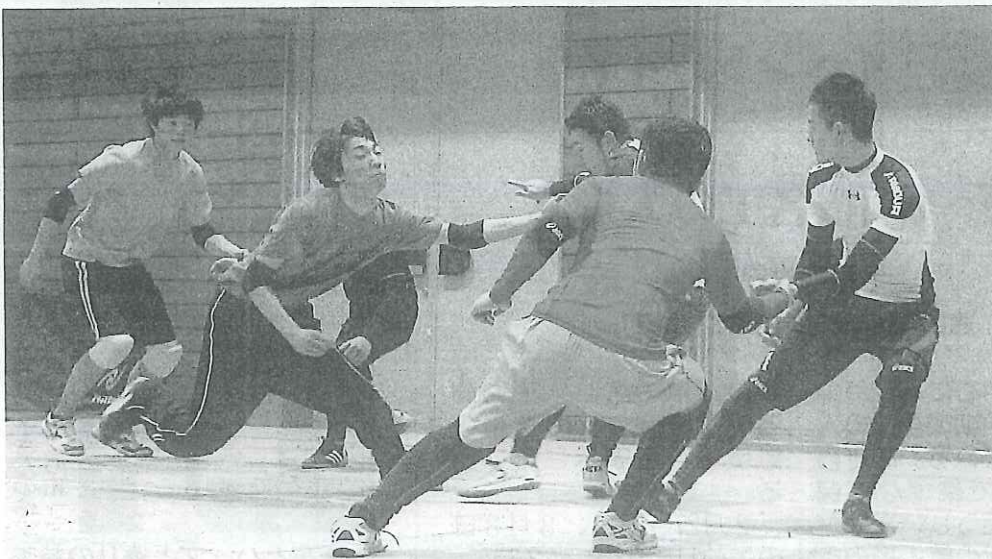
ほかに、竹細工や陶芸など  
芸術分野の選択授業が多彩で、  
ロッジ、ツリーハウス、木製ベ  
ンチなど、校内の至る所に、卒  
業生や在校生が寄贈した手作りの  
作品がある。

英語や国語などの授業時間が  
少ないことを懸念する声もある  
が、新井達也校長は「最も多感  
な時期に、自分を表現する力を  
身に付けることは何よりも重要  
なこと」と語る。

小学校になじみず、「勉強な  
ら家でできる」と不登校気味に  
なった経験がある3年の前田千  
晶さん(18)は同校進学後、美術  
で選択した木工に夢中になり、  
一度も休んだことがない。「こ  
の学校は私を生徒の一人ではな  
く、マエダチアキ個人として見  
てくれ、私がどうしたいかを真  
剣に考えてくれる」と目を輝か  
せる。

イ協会に電話し、指導者の派遣  
を願いだした。今では全日本代表  
選手の練習に定期的に参加した  
り、元部員が強豪校・大正大に  
進学して活動を続けたりしてい  
る。

部員以外にも興味をもつ生徒



生徒の「やってみた  
い」から生まれたカ  
バディ部の練習風景



「染織」の授業で、羊の毛でマフラー作り  
に取り組む生徒(9日、自由の森学園高校で)

生徒の表現力の育成を重視す  
る教育方針から、同校は美術の  
授業に力を入れている。校舎と  
は別に「美術棟」という専門の  
建物が設けられ、生徒は染織、  
木工、絵画の中から一つを選択  
し、1年かけて一つの作品を仕  
上げる。  
染織を選択した2年生は、羊  
の毛に草木染で色を付け、マフ  
ラーを織る。1年がかりで1本  
を作るのだが、デザインに悩  
んだり、織機の使い方を覚え  
たり、時間と根気が必要な作業と

部員以外にも興味をもつ生徒